



さとやまべ

皆さんが笑顔で 過ごせますように



2022年1月1日現在

世帯数	: 5,423戸
男	: 5,763人
女	: 6,119人
計	: 11,882人

館報編集委員として、館報さとやまべの編集や校正に携わらせていただき、2年が過ぎようとしています。最初はこの地区で行われている行事や各町会同士のつながりもよく分からず、自分は場違いだと感じていました。でも、この仕事を通じ、長年ここに住み、この地区のために尽力してこられた方々と接する中で、こで行われている様々な活動や取り組みについても少しずつ知るようになりました。親子連れや年配の方に至るまで、地域の方々が気軽に参加できる行事や活動などが盛んで、子どもたちを見守る温かい目、年配の方々を気遣う優しさを感ずることができ、あらためてここに引越してきて良かったと思いました。



令和4年1月撮影 金華橋から北アルプスを望む

私の座右の銘としている、『私がほほえみ掛けると、人々はそれをありがたく感じ、私の明るい表情は人々を安心さ

せた』という言葉があります。このご時世、人のちよとしたほほえみや声掛けで、互の心が和らぎ、気持ちちが明るくなることがあるものです。里山辺地区がこれからも、ほつとできる住みやすい場所であることを願いつつ、私自身ももっと他の人に関心を払い、気を配れる人になれるよう努力していきたいと思えます。

館報編集委員

後藤 美奈子

わが町紹介

●**兔川寺**●
「**日本沈没**」

『日本沈没』先日まで放映されていたテレビドラマのタイトルです。ご覧になった方もおられると思います。この放映中に日本のあちらこちらで地震が頻発しました。いつの日か、日本沈没が現実のことになるのではと、不安と、恐怖がよぎりました。

兔川寺町会では、コロナ禍において年間行事が中止になる中、11月に防災訓練を実施しました。参加者は、町会長、町会役員のみと限定して行い、内容は備品・消耗品等の確認点検を行いました。また、避難場所が災害の内容によって異なることの再確認、避難困難な時は自宅に留まることを確認しました。幸いにも、この里山辺地区は、比較的安全な地形とのことですが、油断することなく無駄に恐れず、普段の生

活ができるよう万全な準備をしたいと思えます。

須澤 和晴

館報さとやまべ



町会保管の防災備品

**館報さとやまべ
平成版完成!**

年4回発行している「館報さとやまべ」の平成8年1月30日号〜平成31年3月30日号までを、合冊版として作成した「館報さとやまべ平成版」が完成しました。

当時の貴重な写真や地区の出来事、公民館活動等が載っており懐かしい気持ちにさせられます。もちろん資料としてお手元に置いておくのをおすすめです。

ご希望の方は、里山辺公民館(TEL321-1077)まで。一冊2,000円



親子で体験! 餅つき大会

12月18日に杵と臼を使っての餅つき大会。美味しいお餅が出来ました!



親子しめ縄づくり教室

12月25日にお正月の松飾り。一生懸命わらをよって作りました!



祝新成人

令和三年度里山辺地区の新成人の方は、120名です。おめでとうございます

新成人として

私は成人という節目を無事迎えられたことを嬉しく思います。この20年間育て、支えてくれた両親や学校の先生方、友人、地域や周りのの方々に改めて感謝したいと思えます。そして、今後より一層大人としての自覚を持った言動をしていかなければならないと感じています。社会の一員

成人の抱負

私は今年で成人になります。これまでの20年間で多くの経験をすることができました。どのような出来事も私の成長にあらゆる影響を及ぼし、次なる挑戦への自信や糧となる知識、技能として蓄えるこ



としても、当たり前前の常識を身に付け、自分自身で考えて行動できる社会人になるよう努力していきます。学生の今の時期は自分が自由に利用できる時間が多く、それを怠惰に過ごしていくのではなく、将来に繋がるような勉強や経験に使い、少しでも自分が成長できるような知識を積み重ねていきたいと思います。

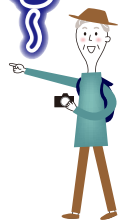
薄町 加藤 晴紀

とができました。最近の私の大きな出来事は、大学生になり一人暮らしを始めたことです。親元を離れ、一人で暮らすということは、想像よりも遥かに大変でした。今までより大きなお金の計算をすることで、暮らしにどの程度お金が必要なのか実感することができました。そして、周りの友達や支えてくれる人々、遠くから支えてくれる両親の優しさに改めて気づくことができました。これからも周りの人々とのつながりに感謝し、自己成長していきたいです。

北小松 東城 千郁子

秋葉街道と塩の道

神々の里 遠山郷を巡る



「秋葉街道」は遠州の塩や海産物を塩尻まで運んだ道で、街道沿いの遠山郷は「霜月祭り」で知られています。この祭りは、旧暦の11月に地区の神社に神々を迎え、夜を徹して神事を行います。

まりを感じながら進み、「郷土館和田城」に到着しました。そこでは「霜月祭り」に特化した映像や展示があり、800年の伝統ある祭りは実に神秘的で、歴史の重みを感じました。

紅葉も散り始めた11月23日、14名の参加者と遠山郷に向けて出発しました。山あいをくねるように走る天竜川と、紅に色づくカエデやモミジに目を奪われ、秋の深

和田城を出ると、「日本の里百選」にも選ばれた秘境「下栗の里」を目指しました。「下栗の里」は狭い谷間に這うように民家や畑が点在する里で、その美しさから「日

福祉ひろば 作品展開催!

昨年引き続き、新型コロナウイルスの影響により福祉ふれあいフェスティバルが中止となりましたが、サークルの皆さんや、里山辺地区の才能ある方々の作品をご覧いただく場を提供したいという強い思いから、作品展のみ開催をさせていただきました。

当日は感染症対策を十分に行い、二日間で、延べ120名以上の方々にご来場いただきました。皆様からの温かいお言葉に、作者の方々も喜んでいらっしゃいました。



開催にあたり、会場づくりや感染症対策にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。福祉ひろば事業推進協議会 小笠原 陽子

絶景ポイントから



資料館の様子

本のチロル」とも呼ばれています。車窓から下を見れば深い谷、そんな狭い道をバスは縫うように上がっていきます。駐車場までバスを降り、絶景ポイントまで歩くと、眼下に広がる景色は正に「天空の里」です。その光景に感嘆の声が上がりました。雪の急峻の南アルプスと「下栗の里」の美しさを堪能した一日でした。

【お知らせ】

令和4年2月5日(土)に開催予定の「令和3年度山辺地区立志式」は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、中止となりました。